

# 三越ギャラリー



6月4日(火)～10日(月)※最終日、午後4時閉場
第18回 中川原哲治・恵子&里彩 染織布展
本館9階 三越ギャラリーA
1894年、東京八王子の地で創業した染織家業を受け継ぎ、伝統の技術を継承しつつ、暮らしのその時々で感じる布を創作をし続ける中川原哲治・恵子と次世代、里彩。山梨・山まゆの里での野蚕飼育の紡ぎ糸や染め織りに加え、バリ島の工房・美雲庵での養蚕と草木の染色。熱帯と温帯での草木の染めと繭からの手紡ぎまわた糸を、自在に駆使した『からみ織り』の布の数々。山まゆの里染織工房の新しい挑戦を、ご高覧ください。
※中川原哲治氏、恵子氏ご夫妻、会期中、作家在廊
〔経緯手紡ぎ 真綿(絹)からみ織り布〕 絹100% (60×200cm)



6月4日(火)～10日(月)※最終日、午後4時閉場
こだましよう まつもと のりよし 児玉士洋・松本憲宜 METAL ART展
本館9階 三越ギャラリーB
企業のモニュメントや国内のパブリックスペースに幅広く制作・設置している金工作家の2人展を開催いたします。主にステンレスを使用し、どこまでも磨かれた鏡面と美しい曲面デザインに、周りの景色を取り込み、四季を通して輝きを映し出します。金属立体彫刻の世界をご高覧ください。
※児玉士洋氏、松本憲宜氏 両作家、会期中在廊
児玉士洋〔水の大地Ⅲ〕 幅30×奥行30×高さ45cm



6月11日(火)～17日(月)※最終日、午後4時閉場
岩瀬健一 作陶展
本館9階 三越ギャラリーA
岩瀬健一氏は、1946年東京都生まれ。松井康成氏、辻清明先氏、辻協氏に師事。1972年八王子に独立窯業。1982年より東京都内を中心に個展を多数開催。1985年日本陶芸展入選以後、国際陶芸展、日本伝統工芸展など多数入選、奨励賞等受賞。札幌三越初個展の本展は、信楽焼の陶器から、白磁、黒磁、柿磁など、幅広い陶磁器を一堂に展示いたします。
※作家在廊予定：6月15日(土)・16日(日)
左から〔信楽花生〕 径14×高さ25cm、〔信楽香炉〕 幅8.5×奥行8.5×高さ17cm、 〔白磁手桶型花入〕 径16×高さ41cm、〔粉引環状壺〕 幅29.3×奥行12.5cm×高さ29.5cm



6月11日(火)～17日(月)※最終日、午後4時閉場
笹井飛文子&クイール革工芸創作展
本館9階 三越ギャラリーB
「はがわ」を活かしてさまざまな作品を創作している笹井飛文子氏。本展は壁に飾る小物入のスリッパや、バッグ、インテリア小物類などを展示いたします。「はがわ」を活かすには何倍もの労力を必要とします。そうして生まれた革の作品の数々をご高覧ください。
※会期中、作家在廊
〔小物入のスリッパ〕 ※写真はイメージです。



©Disney

6月11日(火)～17日(月)※最終日、午後6時閉場
ファンタジーアート&コレクションフェア
本館9階 三越イベントスペース
実写映画の公開で注目を集める「アラジン」の世界を描いた作品を中心に、ディズニーを愛するアーティストが手掛けた版画や原画、色彩豊かなセル画やアメリカ洋食器ブランド「LENOX」の陶磁器製フィギュアなど、夢あふれるアート&コレクタブル作品を展示・販売いたします。
Thomas Kinkade studios[Aladdin]ジグレー+手彩色 (62.5×85.5cm)



6月18日(火)～24日(月)※最終日、午後4時閉場
大野耕太郎 作陶展
本館9階 三越ギャラリーA
夏の食材を盛る、いろいろな形の器の数々。それらが青白磁(せいはくじ)、黄瓷(おうじ)、白瓷(はくじ)などの清々しいわぐすりをまとい、季節の食卓を演出いたします。本展は、身近で使って日々の暮らしを彩る磁器ならではの涼やかな食器、酒器をはじめ、凛とした花器や茶道具など約80点を一堂に展示・販売いたします。
※会期中、作家在廊
[手のひら小鉢] ※写真はイメージです。



6月18日(火)～24日(月)※最終日、午後4時閉場
石川 珂坦 美の世界展 - ジュエリー・絵画・陶芸の来たるべき姿 -
本館9階 三越ギャラリーB
革新的造形で芸術としてのジュエリーの新天地を切り拓いた美術作家 石川珂坦氏の新作を展覧いたします。これまでにない流麗で気品溢れる造形美と、圧倒的存在感を、この機会にぜひご覧ください。
※会期中、作家在廊
[チェントロ] K18、サファイア、ダイヤモンド



6月25日(火)～7月1日(月)※最終日、午後4時閉場
雪ノ浦 裕一 陶展 (North Wind Part V)
本館9階 三越ギャラリーA
林檎灰による灰釉の表現の可能性を追求し、三陸の海の青、山々の緑、琥珀の黄等の岩手の風土の色を表現した、普段使いの器を作りあげている雪ノ浦裕一氏。旭川市出身で、大学で岩手に来て、85年に盛岡に窯を構えました。本展は灰釉の他、粉引、刷毛目、石瓷、碧瓷、桃瓷、栗瓷、漆を用いた漆黒、漆陶など、日常の生活の中に潤いを与える作品の数々を展示・販売いたします。
※会期中、作家在廊
上から〔灰釉朝顔形皿〕径21×高さ2.5cm、〔藍釉朝顔形皿〕径21×高さ2.5cm 〔琥珀釉朝顔形皿〕径21×高さ2.5cm、〔灰釉朝顔形皿〕径21×高さ2.5cm



6月25日(火)～7月1日(月)※最終日、午後4時閉場
-月と夜と花と猫と- 片桐 聖子 絵画展
本館9階 三越ギャラリーB
1967年神奈川県生まれ。東京藝術大学デザイン科卒業の女性作家、片桐聖子氏。2011～12年にかけて、文化庁新進芸術家海外研修生としてミラノに滞在し新たな技法確立と表現の斬新さが注目を浴び、多くの絵画ファンの期待を集めています。札幌三越4年ぶり5回目の本展は、イタリアから色彩の鮮やかさと、日本伝統の「和」の味わいを見事に表現した作品約30点を展覧いたします。
※作家在廊予定: 6月29日(土)・30日(日)
[月光の城聖・蒼然] F4号 木パネル、寒冷紗、岩絵具、金泥